☆　自閉症のある子どもの教育的ニーズの整理①
～障がいの状態等の把握～

自閉症のある子どもの教育的ニーズを整理する観点『①障がいの状態等の把握』について、「障害のある子供の教育支援の手引」から、一部を抜粋してまとめました。詳細については、「手引」第３編をご参照ください。

ア　医学的側面からの把握

障がいに関する基礎的な情報の把握	
把握する事項	留意点等
a 既往・生育歴	・出生週数　・出生時体重　・出生時の状態　・保育器の使用 ・入院歴や服薬　・併存疾患の有無　・感覚の過敏性、鈍感性 ・言語・コミュニケーションの様子　・育った国や言語環境
b 幼児期の発達状況	・乳幼児健康診査の状況 ・発達相談（地域の実施状況により５歳児健康診査を含む）の状況 ・就学時健康診断の状況
c 併存している障がいの有無	・知的障がいの有無 ・学習障がいや注意欠陥多動性障がいの有無 ・発達性協調運動障がいの有無
d 服薬治療の有無	・現在服薬中の薬

【観察について】

自閉症の臨床像は、知的能力や年齢によって、子ども一人一人異なることや、個人の成長の過程の中でも多様に変化しうることが分かっている。そのため、検査に加えて、行動観察などを同時に行い、自閉症のある子どもの知的発達の状態、言語面、社会性・対人面、運動面の状況などや、障がい特性の現れ方等について、子ども一人一人の情報を総合的に集めて実態把握を行うことが大切である。

なお、自閉症のある子どもは、慣れていない場所や知らない場所での活動に対して不安感を抱くことが多いため、行動観察を行うに当たっては、子どもが事前に訪れて活動をしたことがあるような、慣れ親しんだ場所において行うことが重要である。

【医療機関からの情報の把握について】

現在の医療機関をはじめ、これまでにかかっていた専門の医療機関がある場合には、その間の診断や検査結果などの医学的所見を把握することが必要である。また、乳幼児健康診査や発達相談（地域の実施状況により５歳児健康診査を含む）等の事後のフォローとして、療育機関や相談機関につながっている場合もあるため、言語発達や運動発達に関する療育内容なども重要な情報となる。

イ　心理学的、教育的側面からの把握

（ア）発達の状態等に関すること	
把握する事項	留意点等
a 生活リズムの形成	・睡眠や覚醒、活動・休息、食事、排せつ等のリズム
b 基本的生活習慣の形成	・食事、排せつ、衣服の着脱等の基本的生活習慣の自立の程度
c 活動に対する状況	・ルールのある遊びや活動の理解及び参加の状況

d　意思の伝達能力と手段	・言語の理解と表出の状況及びコミュニケーション手段
e　知能の発達	・知能に関する認知や概念の形成
f　情緒の安定	・環境の変化等による緊張の状態や情緒の変化
（イ）本人の障がいの状態等に関すること	
a　感覚や認知の特性	・感覚に過敏性や鈍感性があるか。 ・極端な偏食があるか。 ・聴覚的な情報を処理することよりも、視覚的な情報を処理することのほうが得意であるという「視覚認知の優位」があるか。　等
b　障がいによる学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力	・情緒が安定するように自分自身で環境を調整しようとするか。 ・困ったときに教師や友達に自分から支援を求めることができるか。 ・気持ちが不安定になったときに、気持ちを切り替えるための有効な手段を身に付けているか。　等
c　社会性及び集団への参加の状態	・順番を待つことができているか。 ・ジャンケンや綱引きなど勝ち負けの簡単なルールが理解できているか。 ・集団ゲームなどの活動の中で、ルールと関係のない行動を取ることがあるが、ルールを理解できていないからなのかどうか。　等
d　学習の状況	・学習の態度（着席行動，傾聴態度）が身に付いているか。 ・学習や課題に対する理解力や集中力があるか。 ・年齢相応の態度や姿勢で学習活動に参加できるか。 ・読み・書き（板書・視写・模写）などの技能や速度はどうか。　等
e　自己理解の状況	・自分の得意なことや苦手なことについて認識をもっているか。 ・保護者や教師と自分の特性や困難さについて話し合ったり、相談したりして理解しようとしているか。 ・特性による困難さを正しく認識し、改善・克服しようとする意欲をもっているか。　等
（ウ）諸検査等の実施及び留意点	
a　複数の検査の実施	自閉症のある子どもは、一般に、新しい場面への適応が困難であることが多いため、一度の検査だけで状態像を正確に把握することが難しい場合が多い。そのため、他の発達検査等を適切に組み合わせるなどして子どもの全体像を明らかにすることが大切である。
b 検査実施上の工夫等	子どもが低年齢の場合、言葉の理解が顕著に困難で、発達検査等の課題の教示自体が理解できていない場合が多い。しかし、発達に伴い言葉の理解力が向上し、教示を理解できるようになると課題ができるようになることがあるため、適切な間隔で経時的に何回か検査を行っていくことが大切である。また、検査結果を解釈する際には、家庭や園・学校等の様子を考慮することも必要である。
（エ）認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報の把握	
学校での集団生活に向けた情報	・遊びの中での友達との関わりや興味や関心、社会性の発達など
成長過程	・認定こども園・幼稚園・保育所児童発達支援施設等における成長過程